

H29年度 多摩市立貝取小学校 授業改善推進プラン

1. 国語

H29	A 教科の内容					B 読み解く力に関する内容		
観 点	関心・意欲・態度	話す・聞く	書く	知識・理解・技能	読む	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度 H29	十分とはいえない	十分とはいえない	一部に課題あり	十分とはいえない	概ね満足できる	十分とはいえない	満足できる	十分とはいえない
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 「知識・理解・技能」領域では、漢字の読み書きや語彙などの基礎・基本に課題がある。また、学習した事柄の定着に課題があるため、適切に表現したり、理解したりすることが難しい。 「話す・聞く」領域では、要点をおさえて、話したり、聞いたりすることが苦手である。また、自分の考えを伝えたり、話し合いの仕方を理解して話を進めたりすることに課題がある。 「書く」領域では、文の簡単な構成を工夫することが不十分であり、自分の考えを文章化することが難しい。 「読む」領域では、場面の情景を想像したりや叙述に即して正しく読み取ったりすることに課題がある。 「取り出す力」領域では、文章や資料から必要な情報を的確に取り出すことに課題がある。 							
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 「知識・理解・技能」領域では、日常的に学習した漢字を使うよう意識させたり、丁寧に正確に文字や文章を書いたりさせる。また、随時、辞書を用い言語に関する興味・関心をもつことができる学習指導を進める。また、朝学習や家庭学習で「東京ベーシック・ドリル」を活用し、反復練習や立ち戻り学習を行い、知識の確実な定着を図る。 「話す・聞く」ことに関しては、大事なことを落とさずに聞くために、文に線を引かせたり、メモをとる習慣を付けさせたりする。話す場面では、課題を把握し、結論を話し、その後で理由づけをさせる。支援が必要な児童には、話型を提示し、順序立てて話すための手立てとする。また、全教科の授業で「対話的な学習」が進められるようにし、話したり、聞いたりする力の向上を図る。 「書く」ことに関しては、日記指導の中で、事実と自分の思いを文章化させる活動を継続する。行事の後だけでなく、定期的に日常の出来事や経験したことを書く活動を取り入れる。「目的に応じて書く」力を向上させるために、読み手の関心を喚起する書き出しや読み手が理解しやすい表現の工夫、理由や事例を挙げ、順序立てて書くことなどの具体的な手法について指導する。さらに、よく書けた例を紹介し、具体的に評価するなど、相互啓発の場を取り入れる。 「読む」ことに関しては、音読を授業に位置付け家庭学習としても一層の習慣化を図る。物語教材については、文に即して事実や登場人物の思いを丁寧に抽出する学習展開を重視する。 「取り出す力」に関しては、接続語や指示語に着目し、語と語・文と文・段落と段落の関係に気付き、文意のつながりを考えながら理解する力を養う。 							

2. 算数

H29	A 教科の内容				B 読み解く力に関する内容		
観 点	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度 H29	一部に課題あり	満足できる	概ね満足できる	満足できる	満足できる	満足できる	概ね満足できる
課 題	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な四則演算・計算などの技能は、おおむねの児童がある程度は理解している。しかし、かけ算九九が完全に習熟されていない児童もいる。 知識・理解及び技能の項目の数値が低く、向上させていく必要がある。既習事項の定着が甘く、基礎知識が足りていない。具体的には、基本的な四則演算、計算や図形の法則など定着ができておらず、それらを活用した問題を苦手としている。 「読み解く力に関する内容」が課題である。文章から、必要な情報を引き出す部分ができていないため、問題解決の際に、既習事項を使って自力解決をしようとする力が伸びていない。また、その後の問題である「関係を読み取ること、きまりを見つけて解決する」につながらない。 						

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習や家庭学習での「東京ベーシック・ドリル」の活用を一層推進し、前の学年に立ち戻った習熟学習を行い、基礎的な知識・技能の定着を図る。3年生以上の少人数指導では、「習熟度別ガイドライン」に沿った指導の一層の充実を図り、個に応じた学習の積み上げを継続する。 ・文章題などでは、問われている部分に線を引くなどし、解答のためのデータが視覚的にもとらえられるようにする。また、問題の内容理解を促すため、具体物を使って操作をしたり、いったん口を使った式で表したりするなど、問題解決までの流れをていねいに指導する。 ・問題解決的な学習の一層の充実を図る。特に、「解決する力」に関しては、問題に応じた解決方法を既習事項から見つけ出し活用する学習活動を多く設定する。そのために、学習課題に対して、自分なりの解決方法を表現する自力解決の時間を保障するとともに、多様な考え方を関連づけて説明し合う「対話的な」活動場面をさらに充実させる。
-----	---

3. 理科

H29	A 教科の内容				B 読み解く力に関する内容		
観 点	関心・意欲・態度	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度 H29	十分とはいえない	満足できる	十分とはいえない	一部に課題あり	満足できる	概ね満足できる	満足できる
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・理解」に関しては、学習で得た知識を日常生活と結びつけて考える力が不十分なため、既習事項が知識の一般化につながらない。 ・「観察・実験」に関しては、課題を把握し、自力で観察・実験を行い結果を出すための技能が十分に身に付いておらず、そのために、結果・考察から導き出される知識・理解の定着も低くなっているということが課題である。また、実験器具の正しい使い方や安全に実験する方法についての理解が低い。普段の実験で道具を正確に使えていないと予測される。 ・「科学的な思考・表現」に関しては、既習の学習内容や知識を活用して、予想を立てたり、推測したりをすることが苦手である。また、結果や考察を理科の用語を使って表現することに課題がある。 						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・理解」を高めるために、学習したことを日常生活と結びつけて考えさせることで、学習内容を身近なものとして捉えさせ、知識を一般化させていく。 ・「観察・実験の技能」を高めるために、「東京ベーシック・ドリル」を積極的に活用し、実験器具の扱い方や実験の方法・手順など、基礎的・基本的な学習事項の確認・定着を図る。また、実験に取り組む機会を増やし、やり方や注意点を丁寧に指導する。 ・観察・実験の結果を予想と照らし合わせて考えさせ、問題解決的な学習を行う。また、考察後の結論を話し合いを通して、明確にする。 ・追究の過程において、児童の思考を焦点化して整理させるために、発問や教材の提示の仕方を工夫するとともに、話し合いの場を保障することで、「対話的に」学ぶことができるようにする。 						

4. 社会

H29	A 教科の内容				B 読み解く力に関する内容		
観 点	関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度 H29	一部に課題あり	満足できる	満足できる	十分とはいえない	満足できる	一部に課題あり	満足できる
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・取り出した複数の情報をもとに推論したり、それらを関連づけたり統合したりして考え、適切に表現する力に課題が見られる。 ・知識・技能の項目が低い状態である。既習事項の定着が未熟で、活用するまでに至っていない状態の分野がある。ワークシートなどを活用して、基礎知識を定着させていく必要がある。特に、関東近辺の都道府県の理解が浅い。 						

	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取りに課題がある。資料の内容の捉え方からもう一度確認し、活用方法も含めて能力を向上させる必要がある。
改善策	<ul style="list-style-type: none"> 児童の生活に関連付けた課題を設定し、学習計画を立てさせる。観察や調査、見学などの体験活動を行い、そこでの気づきを図やグラフ、文章でまとめたり発表したりする表現活動を行う。 グラフや資料の読み取りの機会を多く設定し、全体や部分に気を付けながら資料を活用する力を伸ばす工夫をする。また、2つ以上の資料を比較したり、関連づけて考えたりする指導を行う。これらのことから、児童が資料等から必要な情報を取り出すための技能（読む力）と、複数の情報を比較・関連付け・統合するための問題解決的な能力を高める。 見学や調べ学習をする際に、事前に学んだことをもとにした、具体的な視点をもたせる。また、グループ内での話し合いの場面を設け、考えを広げさせる。 「東京ベーシックドリル」を効果的に活用し、個に応じた学習支援を行い、基礎的・基本的な学習事項（方位・方角、地図記号、都道府県の位置、グラフや資料の読み取り方など）の定着を図る。